

～このホームページでは～

- ・東京湾の昔から今の変化。
 - ・なぜ東京湾は変化したのか。
 - ・東京湾が昔のままだったら私たちの生活や暮らしはどのようになっていたか。
 - ・私たちにできること
などがのっています。
- ぜひ最後まで見てください。

1994年(平成6年)の東京湾の様子

- ・ゴミが砂浜に落ちている
 - ・ごみ以外に棒が落ちていて整備されていないなど



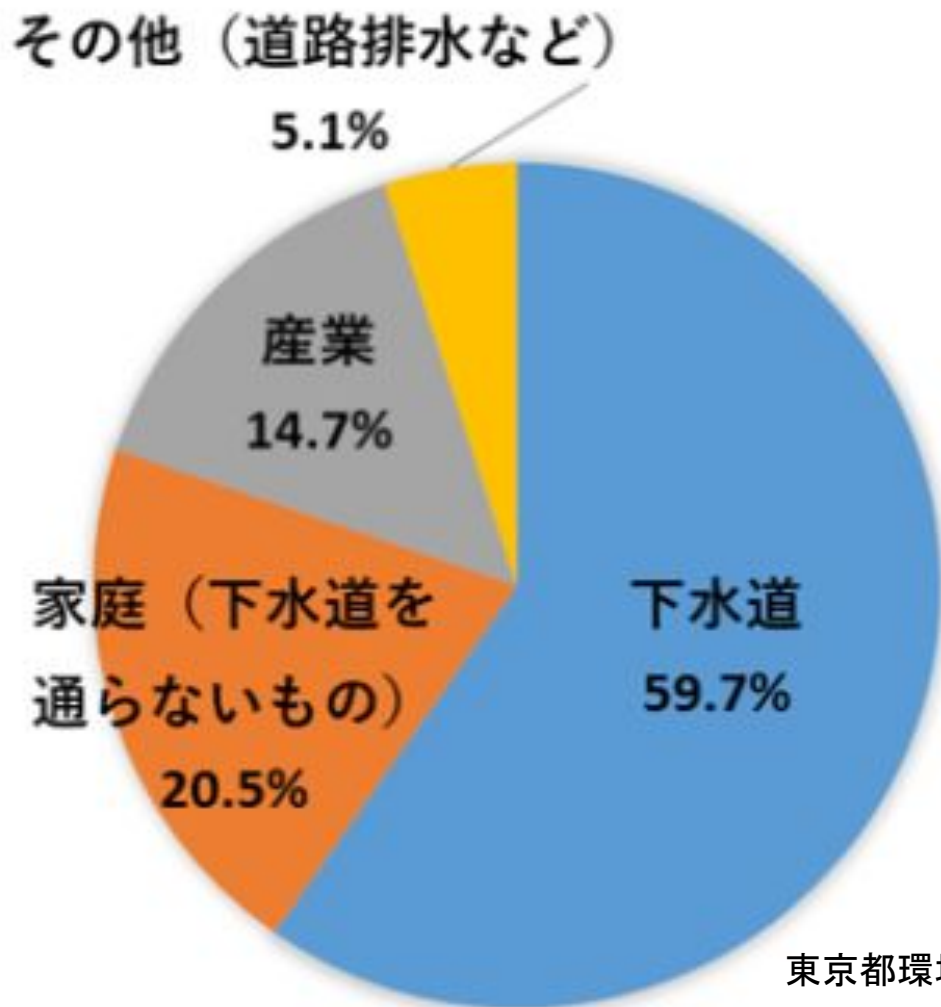
今の東京湾の様子

- ・ゴミがなくなった
- ・海や砂浜がきれいになった
など



何があったの
だろうか？

東京湾が汚れた主な原因



東京湾の水が汚れた理由は大きく分けて2つあります。

1つはプランクトンの大量発生による赤潮、

もう1つは工場や家庭などからの排水です。
左の円グラフは工場や家庭からの排水についてのグラフです。

実は...

東京湾の水のきれいさは

あまり変わっていません！

ただし

少しずつきれいになっています

その理由は...

①工場生活排水に対する法律の
規制強化

②プランクトンの大量発生による
赤潮

工場、生活排水に対する法律の規制強化

昔、下水道がなかった時代は汚水そのまま東京湾に流していました。
そのため、東京湾の水が汚れてしまいました。

その時の東京湾は「死の海」と呼ばれるほど汚かったそうです。

地方への事業所や工場の移転による地域環境の汚染や汚濁が高度成長期以降にみられましたが、時代とともに経済も変化するため、事業所や工場も移転します。そのため、新しい環境の汚染や汚濁も発生します。

新しい工場や事業所が設置される場合などに、質の高い排水処理施設や設備を設けることが必要です。

プランクトンの大量発生による赤潮

人間が使った洗剤や農薬、肥料などに含まれる窒素やリン酸がプランクトンの栄養になります。栄養が増えるとプランクトン(主に植物プランクトン)が増えます。

植物プランクトンが増えると、それを食べる動物プランクトンが増えます。動物プランクトンが増えると、動物プランクトンは海にいる魚と同じように酸素(O₂)を使って呼吸をします。

なので、水中で酸素を使う生き物が増えて酸素不足になり、私たちの食べる魚が呼吸できずに死んでしまうかもしれません。つまり、赤潮は海がよごれるだけでなく、私たちが食べる魚もいなくなってしまうのです。

海洋ごみは年々増え続けています。
2050年には海洋ごみの数が魚の数を上回るとされています。
ただし、これは何の対策を行わなかったらの話です。
つまり、何か対策をしたら、海洋ごみを増やさない、もしかしたら減らすこともできるかもしれません。
でも、海洋ごみの中で私たちが見る砂浜に落ちているごみや海の上に浮かんでいるごみは、海洋ごみの中のごく一部です。
海洋ごみの94%は海底に沈んでいます。海底に沈むと回収するのが困難です。
なので、私は、ごみを「減らす」というより「増やさない」ということから始めたほうが良いと思います。



最後に...

海ごみは増え続けています。

先進国である日本でも20%代しかリサイクルされていません。

それに、ごみ以外にも工場排水や農薬によって増えたプランクトンによる赤潮など色々な理由で海は汚れています。

海を汚しているのは人間たちです。

あなたの周りの人にもこのホームページで知ったことを伝えて、みんなで海と魚を守りましょう。